

第一展示室 学習シートNo.1 (秋田県の地理と農業のあゆみ, 昔の農作業など)

なまえ

1 入口近くの「秋田県の地図」を見て次の川や山脈, 平野や盆地を確認しよう。

①能代平野をとおりる川	川	④秋田県の東にある山脈	山脈
②秋田平野をとおりる川	川	⑤秋田市のある平野	平野
③本荘平野をとおりる川	川	⑥大仙市や横手市のある盆地	盆地

2 「秋田県農業のあゆみ」を見て, 農業に関係のある人について調べてく 〈 〉になまえを書こう。

年	できごと
	羽後町西馬音内生まれの農村経済学等の学者である 〈 〉 (1769~1850)。
1821年	〈 〉 (1793~1856), 弘戸村の開拓事業に着手する。
1896年	〈 〉 (1845~1915), 適産調をはじめめる。
1909年	〈 〉 (1866~1925) の提唱により農事研究会が発足する。

3 【 〇 】に言葉や数字を入れて八郎潟の干拓についてまとめよう。

八郎潟は日本第【 〇 】位の面積の湖でした。第2次世界大戦後, 国が【 〇 】を目的として, 干拓工事が行われ【 〇 】年の年月をかけて干拓地が作られました。その面積は【 〇 】県の全水田面積に匹敵する広さです。干拓地は大潟村という名前になりました。

4 「山の利用」について【 〇 】に言葉を入れ, 文を完成させて, まとめよう。

炭焼き	炭は一般家庭で暖房や炊事などの【 〇 】に使われていた。
放牧	農作業の終わった【 〇 】や【 〇 】は山の一部分を開放した放牧地に降雪期まで放し飼いにした。
山菜	ワラビや【 〇 】, タケノコ, 【 〇 】などの山菜を採り食用にしていた。
干し草	干し草は堆肥や【 〇 】の家畜の飼料としていた。 ※ 飼料=えさ

5 「さなぶり」についてく 〈 〉に言葉を入れてまとめよう。

農家では田植えが終わるとく 〈 〉や氏神に御神酒や餅などを供えてく 〈 〉します。休日には手伝いをしてくれた人を招きく 〈 〉ます。

6 季節の農作業についてジオラマ（模型）や展示物、写真を見て（ ）に言葉を入れよう。
 また、現在と昔のちがいを考えて、[]にも言葉を入れよう。

季節	作業の種類	現在の作業内容・方法	昔の作業内容・方法	現在と昔のちがい
はる春	たね種まき	たね種もみを選び育苗箱にまく。ハウスの中で温度管理をして育てる。	田んぼに直接、（ ）をまいて、田植えができるくらいまで苗を育てた。	昔はハウスなどがなかったので、温度管理が[]。
	こうき耕起	トラクターでたがやす。たがやす前に、たい肥や肥料を入れる。	たがやす前に、たい肥を入れる。（ ）にすきを引かせて田をたがやした。	昔は動物を使って耕起や代かきをしていたが現在は[]という機械を使っている。
	しろ代かき	トラクターを使って代かきをする。	（ ）に馬ぐわをつけて引かせた。土をくだいて（ ）で平らにした。	たがやす前に、たい肥や肥料を入れるところは共通している。
	たう田植え	たう田植機でおこなう。ひりょうをまきながら植える機械もある。	（ ）で印をつけて人の手で植えた。大勢の人が何日もかけて植えた。	現在は田植機で小人数でも短い期間でできるが、昔は[]人数で、長い期間が必要だった。
なつ夏	じよそうざい除草	じよそうざい除草剤をまく。エンジン付きの除草機もある。	（ ）を押して草をとった。	きかい機械ややくざい薬剤を使う現在より、じんりき人力の昔の方が[]。
	やくざい薬剤散布	どうりょくつけさんぶぎ動力付散布機・ハリコプターなどで農薬をまき病気や害虫を防ぐ。	手動式の散布機で農薬をまいた。農薬を遠くまでまくことができなかった。	農薬をまくにしても、時間がかかり現在より昔の方が効率が[]。
あき秋	いねか稲刈り	コンバインでおこなう。	いねか稲刈り用の（ ）を使い大勢の人が何日もかけて刈った。	げんざい現在はコンバインで小人数でできるが、昔は[]人数が必要だった。
	いね稲かけ いねあ稲上げ かんそう乾燥	かんそうき乾燥機・カントリーエシベーターで乾燥させる。	稲を刈って「くい」や「はさ」にかけた。稲を守るため子どもたちがスズメを追いはらった。	昔は外で乾燥させたので雨が降ったりすると水分調整が[]。
	だっこく脱穀	コンバインで稲刈りをするので、脱穀もその場でできる。	稲のたばを作業場所まで運び（ ）や（ ）で脱穀する。	現在はコンバインでやるので手間がかからないが、昔は稲のたばを運んで脱穀をしたので、手間が[]。

7 「地域の水 仙北平野」について、（ ）に言葉を入れて農業水利施設の4つの役割をまとめよう。

① しょうせつ消雪やりゅうせつ流雪に使われ、私たちの（ ）の暮らしが安全で快適なものになるために役立っている。
② （ ）などを洗う洗い場として利用されている。
③ ぼうか防火（ ）として役立っている。
④ 農業用水は、この地域の生態系の（ ）に役立っている。

第一展示室 学習シートNo.1 (秋田県の地理と農業のあゆみ, 昔の農作業など)

答 え

1 入口近くの「秋田県の地図」を見て次の川や山脈、平野や盆地を確認しよう。

①能代平野をとめる川	米代川	④秋田県の東にある山脈	奥羽山脈
②秋田平野をとめる川	雄物川	⑤秋田市のある平野	秋田平野
③本荘平野をとめる川	子吉川	⑥大仙市や横手市のある盆地	横手盆地

2 「秋田県農業のあゆみ」を見て、農業に関する人について調べてく 〈 〉 になまえを書こう。

年	できごと
/	羽後町西馬音内生まれの農村経済学等の学者である 〈 佐藤信淵 〉 (1769~1850)。
1821年	〈 渡部斧松 〉 (1793~1856), 弘戸村の開拓事業に着手する。
1896年	〈 石川理紀之助 〉 (1845~1915), 適産調をはじめめる。
1909年	〈 斎藤宇一郎 〉 (1866~1925) の提唱により農事研究会が発足する。

3 【 】 に言葉や数字を入れて八郎潟の干拓についてまとめよう。

八郎潟は日本第【 2 】位の面積の湖でした。第2次世界大戦後、国が【 食糧増産 】を目的として、干拓工事が行われ【 20 】年の年月をかけて干拓地が作られました。その面積は【 神奈川 】県の全水田面積に匹敵する広さです。干拓地は大潟村という名前になりました。

4 「山の利用」について【 】 に言葉を入れ、文を完成させて、まとめよう。

炭焼き	炭は一般家庭で暖房や炊事などの【 燃料 】に使われていた。
放牧	農作業の終わった【 馬 】や【 牛 】は山の一部分を開放した放牧地に降雪期まで放し飼いにした。
山菜	ワラビや【 ゼンマイ 】, タケノコ, 【 キノコ 】などの山菜を採り食用にしていた。
干し草	干し草は堆肥や【 冬場 】の家畜の飼料としていた。 ※ 飼料=えさ

5 「さなぶり」についてく 〈 〉 に言葉を入れてまとめよう。

農家では田植えが終わるとく 〈 田の神 〉 や氏神に御神酒や餅などを供えてく 〈 感謝 〉 します。休日には手伝いをしてくれた人を招き 〈 もてなし 〉 ます。

6 季節の農作業についてジオラマ（模型）や展示物、写真を見て（ ）に言葉を入れよう。
 また、現在と昔のちがいを考えて、[]にも言葉を入れよう。

季節	作業の種類	現在の作業内容・方法	昔の作業内容・方法	現在と昔のちがい
はる春	たね種まき	たね種もみを選り育苗箱にまく。ハウスの中で温度管理をして育てる。	田んぼに直接、（種もみ）をまいて、田植えができるくらいまで苗を育てた。	昔はハウスなどがなかったので、温度管理が[むずかしかった]。
	こうき耕起	トラクターでたがやす。たがやす前に、たい肥や肥料を入れる。	たがやす前に、たい肥や肥料を入れる。（馬）にすきを引かせて田をたがやした。	昔は動物を使って耕起や代かきをしていたが現在は[トラクター]という機械を使っている。
	しろ代かき	トラクターを使って代かきをする。	（馬）に馬ぐわをつけて引かせた。土をくだいて（代かきならし板）で平らにした。	たがやす前に、たい肥や肥料を入れるところは共通している。
	たう田植え	田植機でおこなう。ひりょうをまきながら植える機械もある。	（田型）で印をつけて人の手で植えた。大勢の人が何日もかけて植えた。	現在は田植機で小人数でも短い期間でできるが、昔は[大]人数で、長い期間が必要だった。
なつ夏	れそう除草	除草剤をまく。エンジン付きの除草機もある。	（人力除草機）を押して草をとった。	機械や薬剤を使う現在より、人力の昔の方が[つかれる たいへん など]。
	やくざい薬剤散布	動力付散布機・ヘリコプターなどで農薬をまき病気や害虫を防ぐ。	手動式の散布機で農薬をまいた。農薬を遠くまでまくことができなかった。	農薬をまくにしても、時間がかかり現在より昔の方が効率が[悪い]。
あき秋	いねか稲刈り	コンバインでおこなう。	稲刈り用の（かま）を使い大勢の人が何日もかけて刈った。	現在はコンバインで小人数でできるが、昔は[大]人数が必要だった。
	いねか稲かけ いねあ稲上げ かんそう乾燥	乾燥機・カントリーエシベーターで乾燥させる。	稲を刈って「くい」や「はさ」にかけた。稲を守るため子どもたちがスズメを追いはらった。	昔は外で乾燥させたので雨が降ったりすると水分調整が[むずかしかった]。
	だっこく脱穀	コンバインで稲刈りをするので、脱穀もその場でできる。	稲のたばを作業場所まで運び（足踏脱穀機）や（千歯扱き）で脱穀する。	現在はコンバインでやるので手間がかからないが、昔は稲のたばを運んで脱穀をしたので、手間が[かかった]。

7 「地域の水 仙北平野」について、（ ）に言葉を入れて農業水利施設の4つの役割をまとめよう。

① しょうせつ消雪やりゅうせつ流雪に使われ、私たちの（ 冬 ）の暮らしが安全で快適なものになるために役立っている。
② （ 野菜 ）などを洗う洗い場として利用されている。
③ ぼうか防火（ 用水 ）として役立っている。
④ 農業用水は、この地域の生態系の（ 保全 ）に役立っている。